

おいでよ! 一緒に遊ぼうぜ! 夢キャンフ能登半島

ふくしまっ子チャレンジサマースクール2014in石川



報告書

平成26年 **8月9日(土)~15日(金)** 6泊7日

- 主催 特定非営利活動法人 poco連人
ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会
- 協力 ふくしまかなざわキッズ交流実行委員会
特定非営利活動法人 ワンネススクール
- 宿泊場所 石川県立能登少年自然の家
金沢市キゴ山ふれあいの里研修館

『ふくしまっ子チャレンジサマースクール 2014 in 石川』を終えて

ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会

代表 岩井 繁 樹

衝撃の東日本大震災から3年と9カ月の月日が経ちました。東北の復興に寄せる人々の関心は、北陸新幹線開通や東京オリンピック開催の話題にかき消され、日々薄くなっていくように感じるのは私だけでしょうか。

今年に入り3度訪れた福島県は一見平穏そのものでした。しかし、いまだに放射能を垂れ流す福島第1原発の存在が、福島に住む人々のところと身体に重くのしかかったままなのが現実でした。

3年目を迎え、参加者・スタッフ倍増

それでも今年のふくしまっ子達はやっぱり元気でした。

昨年の16名から一気に30名が、福島県の各地から集まってくれました。その内リピーターは10名。あとの20名は初めての参加です。

さらに今年はボランティアとして参加してくれる学生リーダーや大人スタッフが全国各地（東京、千葉、大阪、広島、福島）から数多く集まってくれました。ふくしまっ子の倍増と初参加スタッフの多さに、当初はうれしい反面、不安な気持ちもありました。

期間中では、こども達が一番楽しみにしていた海水浴の日に台風11号が石川県を直撃し、翌日に順延したものの海水浴場の遊泳禁止が解除されず、一同気を揉む一幕もありました。（実際には奇跡的に海水浴は実施することが出来ました。）

その他、細かなスケジュール変更などがありましたが、当初の心配をよそに、はじけるような笑顔一杯、元気一杯の6泊7日を、ふくしまっ子も、学生リーダーも、大人スタッフも、さらにキッチンスタッフも過ごすことができました。最終日の別れのバスではほとんどのこども達が涙を流し、学生リーダー・スタッフとの別れを惜しむ姿が印象的でした。

地元福島のバックアップ

今回は初めて福島県の郡山市にある「特定非営利活動法人 poco 連人（ポコレント）」さんと共催という形で実施いたしました。

きっかけは poco 連人の中村洋二郎理事長が昨年のチャレンジサマースクールの報告書をご覧になり、大変感動してくださったことでした。そして、福島県が主管する「ふくしまキッズ夢サポート事業」に申請していただき、今回の運びとなりました。

他にも、いわき市からボランティア活動をされている大人スタッフ2名、福島大学から学生リーダー2名が参加してくれました。このように石川県での我々の活動に対し、福島県の地元のみなさまのバックアップをいただくことに限りない喜びとこれからの希望を抱いている次第です。

福島から日本のリーダーを

私は1回目のチャレンジスクールを開催するときから、放射能の影響でさまざまな制約やストレスを抱えるふくしまっ子の中からこそ、必ず将来の日本を担うリーダーが出てくることを確信しています。そのための一助としてこの事業を継続しようと決めたのです。まだまだ道半ばですが、その夢を追いかけ、その夢の実現にふさわしい保養事業にしようと思っ真剣に思っています。私たちのチャレンジは続きます。

最後になりましたが『ふくしまっ子チャレンジサマースクール 2014 in 石川』に対しまして多くの方々から、こころ暖まるご支援ご協力をたまわりましたことを改めて深く、深く感謝申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



「保養キャンプ」を考える

よしだ小児科クリニック

院長 吉田 均

保養キャンプはなぜ必要なのでしょうか?世界の論文をもとに考えてみたいと思います。政府系の専門家たちは「福島第一原発事故で放射線の健康被害は出ないだろう」と言っています。是非そうあってほしいものです。しかし、私のこれまで学んだところによれば、低線量被ばくの健康リスクは海外で多数報告されており、その中でも昨年、英国医学ジャーナルに発表された論文は決定的な内容でした。

オーストラリアで^{*}CT検査(下記参照)を受けた若年者68万人を9.5年にわたって調査したところ、脳腫瘍や白血病をはじめとあらゆるがんが増加していたというのです。この調査の特徴は、対象者の数が膨大である点だけではなく、個々の推定被ばく線量が他の調査に比べより正確であるという点です。そして、1回の平均線量がほんの4.5ミリシーベルトであっても、1,800人に一人ががんになったというのです。しかも、論文にはこう書かれています。「この9.5年の調査期間後もがん患者は増え続け、がんの生涯リスクはこれよりもっと高くなると考えられる」。

これまで、専門家たちは「100ミリシーベルト以下はがんの増加は確認されていない」と言い続けてきました。しかし、改めるべき時が来たようです。4.5ミリシーベルトという低線量被ばくで健康リスクが生ずるとすれば、被災地では少しでも被ばくを軽減する方策が必要です。その一つとして他県での保養キャンプの重要性はとて大きいと思われれます。

*CT検査(=コンピュータ断層撮影)とは、身体に放射線を何回も照射することで断層画像を描き出す検査法です。

特定非営利活動法人『poco 連人』さんの紹介

平成16年12月に福島県郡山市で設立されたNPO法人(特定非営利活動法人)で、現在代表の中村洋二郎さんを中心に役員6名、会員19名で活動されています。

poco 連人とは、イタリア語で音楽の速度記号 poco a poco(少しずつ)と、同じく速度記号 len to(ゆっくりと)を組み合わせ“連人”の漢字を当てはめて『無理をせずに少しずつゆっくりと、人と人がつながっていくように』との願いを込めて名付けられました。

子供から高齢者までの四世代が家族・親戚の枠を超えて交流出来る豊かで明るい街づくりを目指していて、平成17年から毎年郡山市を中心に海外からのアーティストを呼んでのコンサートや、大震災復興支援の児童向け無料舞台芸術祭「ポコフェスタ」など多彩な活動を展開されています。

今回石川県での夏の保養キャンプに6名の会員さんがスタッフとして全日程参加されました。当ふくしまっ子チャレンジサマースクールには櫻井保夫さん、新田洋子さん、^{ひるた}蛭田晃司さんが参加され大活躍いただきました。











事業報告書

1. 事業名 おいでよ！一緒に遊ぼうぜ！夢キャンプ能登半島
ふくしまっ子チャレンジサマースクール2014 in 石川
2. 実施主体 特定非営利活動法人 poco連人
ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会
3. 実施期間 平成26年8月9日(土)～平成26年8月15日(金) 6泊7日
4. 宿泊場所 石川県立能登少年自然の家 石川県鳳珠郡能登町字九里川尻16字20番地 (9日～12日)
金沢市キゴ山ふれあいの里研修館 石川県金沢市小豆沢町34番地 (12日～15日)
5. 実施場所 石川県立能登少年自然の家 (野外活動・室内レクレーション)
五色ヶ浜海水浴場 (海水浴)
のと海洋ふれあいセンター (塩づくり・施設見学)
石川動物園 (ネイチャーゲーム)
金沢市キゴ山ふれあいの里研修館 (バーベキュー・キャンプファイアー) 金沢市東山界隈
6. 参加者 福島県の小学1年生～中学2年生／30名 (本宮市6名 郡山市10名 福島市2名
いわき市8名 伊達市1名 会津若松市1名 白河市1名 西白河郡1名) 保護者／2名
千葉県東金市1名 石川県の小学生2名

7. 事業内容

《主なスケジュール》

8/9
(土)

- 9:00 JR 西日本バス (大型バス、運転手2名) 郡山駅発
大人 (poco 連人2名・いわき市2名・東京1名・保護者1名)
大学生 (福島2名・東京1名) 同乗
歌・連想ゲームで盛り上がる。緊張が解けたかな。
- 12:00 途中SAにて昼食 おにぎりをムシャムシャ、食欲満点
- 17:30 石川県立能登少年自然の家到着
- 18:00 ウェルカム夕食
- 19:00 オリエンテーション (施設担当者からの注意事項)
親しくなろうゲーム
入浴をしてゆったり～ふくしまっ子の日記 YWKT
(Y: やった事、W: 解かった事、K: 感謝できた事、T: トライした事)
- 21:30 就寝



8/10
(日)

- 6:00 起床洗面、そうじ、ラジオ体操、朝食 (朝から元気!! 空き時間にはサッカー)
- 9:00 海の予定が・・・台風の影響で変更。のと海洋ふれあいセンターで塩づくり。
海水をぐつぐつ煮ていくと一塩の結晶が出来てきました。お土産に一人一袋!!
ふれあいセンターで海の3D映画を観たり、魚・貝・ヒトデなどと触れ合いました。
- 12:00 施設に戻り昼食 子供たちは元気、またまた空き時間にサッカー
- 13:30 台風接近のため自然の家体育館でゲーム大会
班の団結が強まりました。
- 16:00 入浴 広いお風呂でのんびり 夕食
- 19:00 フェイスブック掲載用メッセージ&写真撮影
ジョンさんの英会話教室 (歌とゲームで英語に親しむ)
- 21:30 就寝 明日は晴れて海水浴が出来ますように・・・



8/11
(月)

- 6:00 起床洗面、そうじ、ラジオ体操、朝食（やはり今日も朝から元気!!）
9:30 晴れましたー!!そして海水浴です。朝の海はちょっと水が冷たかったけど、へっちゃら!!
能登の綺麗な海ではしゃぎました!!
12:00 一度施設に戻り昼食
郡山から参加の橋本父さんウニを素潜りで採り子供たちに食べさせてくれました。
13:30 もう一回海～午後の海は温かく、気持ち良い。砂遊びに、魚さがし
え?!砂浜でサッカー 満喫できましたー!
16:00 施設に戻りスイカ割。
男女とも一発で割ってしまいました。美味しかったー!
入浴 砂と塩の香りを洗い流しました。
19:00 疲れたなんてなんのその。夜のレクリエーション。
♪きりんさんキリンさんどうして♪
♪夢が 夢があるから～♪
21:30 就寝



8/12
(火)

- 6:00 能登少年自然の家での最後の朝
起床洗面、甲状腺検査のため朝早くから移動
11:00 吉田小児科クリニックでの検査 今年も吉田先生が子供たちの為に行ってくださいました。
班に分かれて石川動物園散策。NPO 法人いしかわ自然体験支援隊の皆さんの指導で
楽しいクイズ、ビンゴゲームをしながら動物園を散策。
ライオン、トラ、レッサーパンダ、ウサギとのふれ合い、そしてキリンさん。
みんなで合唱♪ きりんさんキリンさん♪・・・
17:00 キゴ山ふれあいの里研修館に到着。
18:00 夕食
19:00 キゴ山の夜のお散歩。金沢の夜景が一望でした。
入浴
21:30 就寝



8/13
(水)

- 6:00 起床洗面、そうじ、ラジオ体操? いえいえイケメン体操でした。
8:00 朝食 配膳片づけは班で順番に行きます。
ご飯は無農薬の美味しいコシヒカリ。野菜も無農薬、エコファーム奥野さんの提供です。
トモファーム・あゆみの野菜の鍋島ご夫妻からの無農薬の野菜もいただきました。
ご飯があっ!という間にペロリ) ^o^(
9:00 恒例の水鉄砲づくり&水かけ合戦
毎年子供も、リーダーも、大人もはしゃぎまわって大盛り上がり!
木谷さん、村上ムーさん、毎年ありがとうございます。
12:00 外での流しそうめん格別でした。(ちゃんとつかめたかなー)
13:30 屋台広場開催! シャボン玉・ポップコーン・氷彫刻
巨大シャボン玉やシャボンの連続技。綺麗で幻想的。
ポップコーンは色んな味付けを自分達で作りました。
氷のトロフィーもできたよ。
16:00 夕食 ふれ合い時間 入浴
19:00 ぷふくしまっ子ムーライトコンサート
トキ&メグ+司+ビンセント♥
スペシャルなゲストにサックス演奏の樹里ちゃん。
しっとり聴かせて、ノリノリに盛り上がりました。
イワジーの司会もなかなかいけてましたね。



8/14
(木)

- 6:00 起床洗面、この日はアイドル体操!! 女子力ばっちり。
- 9:00 恒例の金沢ひがし茶屋街散策 まずは高木麴商店見学。いざ!
金沢らしい観光地でお土産を買ったり、美味しいアイスを買ったり。
初めて茶屋街を訪れる子どもたちに前回参加の子どもたちが色々お店を案内していました。
やはり金箔とお菓子のお土産多かったですね。
- 12:00 昼食 お腹がすきました。キッチンスタッフの美味しい手料理が待っていました。
- 13:00 子供たちはスタッフへのメッセージづくり&写真撮影。
「ありがとう」の一言に涙でした。
- 15:30 夕食バーベキューのための準備
各班ごとに野菜をきざんで準備万端。
- 17:30 バーベキュー お肉もいっぱい食べました。
- 19:30 お待ちかねキャンプファイアー!!
炎に包まれシーファース登場!!
ミルキー・トキ・リボンちゃん広島トリオによる進行に
みんなノリノリ。
踊りに歌に
「♪熱いかな、寒いかな、
よくかき混ぜて、あっちいちら、
あっちいち♪」
最後はトキの歌声に・・・



8/15
(金)

- 6:30 起床洗面、朝食、荷物整理
- 8:00 閉校式 寄せ書き色紙授与 お別れあいさつ
みんなで輪になって「♪夢が 夢があるから♪」
- 9:00 JR 西日本バス (大型バス、運転手2名) 金沢発 大人 (poco 連人3名・いわき市1名
東京1名・保護者1名)、大学生 (福島2名・東京1名) 同乗
- 16:30 郡山駅前到着 ふくしまっ子30名全員無事親御さんに届けることができました。



また来年会いましょう!!
それまでみんな元気で行ってらっしゃーい。
そして、いろんなことにチャレンジしよう!



保護者の感想

息子は三年保育の幼稚園に通っていた。年中の終わりに被災しました。仲の良い友達やいとこは、他県へ避難し、不安で複雑なままでした。年長の夏に少年自然の家に一泊し、キャンプする事が恒例で最大の楽しみな行事でした。そのお泊まり会も運動会もお芋堀りも園外保育も本来の張り切ってやっていた行事ができては卒園しました。震災で小さくなりました園児2人とお母さんもいたので、その方を思えば、生きているだけで、他は、辛抱するしかないと思っていました。県の補助事業の企画内容で息子が参加できるものと色々探していましたが、なかなか本人の勇気とやる気が出ず、三人兄弟の長男という事もあり、たくましくなってもらいたい為に沢山の経験を積ませてあげたいと思う親の願いは、足踏み状態でした。それが、チャレンジサマー学校のチラシを見せたら「行きたい」と即決したのです。宿泊場所が少年自然の家でキャンプと海水浴が一番の魅力で、様々なプログラム内容に、申し込みできてからは、毎日がわくわくと過ごしていました。私達も嬉しかったです。

当日、初日、集合場所での様子や一日目の写真を見ると少し緊張していたようですが、親から離れて、遠出するのも初対面の人達と何かをするのも一人ひとりが企画に参加するのにも何か何とも初体験だったので当然だと思っていましたが、アップされてくる活動の様子の写真からは、人見知りや羞恥、引込み思案の息子とは見違える程、いい表情で楽しさが伝わり、辛さ感が溢れていました。集団の中の息子を見てきた中で一番自然体で輝いていました。私達も不安はあったものの、情報を発信してもらっていた事で安心感が得られ、七日間を楽しみながら過ごす事ができました。

野菜中心の食事が苦手、注射も大の苦手だったので血液検査の時も苦戦した事よりも、無事に終了したのは、近くにおいて下さったリーダーさんやスタッフさんの励ましと温かな見守りがあったからこそだったと思います。ありがとうございました。息子も昨日までは、知らなからた人達も、遠く離れた場所でも温かく歓迎してくれて一緒に楽しむ事ができるんだとゆう事を、心に刻んだと思います。これもこの企画の実現に向けて奔走して下さった方々、その思いに協力して下さいた大勢の方々のおかげで感謝の気持ちでいっぱいです。

はゆまが帰って来て言った驚きな一言!

1. 「短かった〜あ。三週間くらいいたかった〜あ」
2. 「みんなの名前、覚えた!」 特にクキさんファミリーを覚えた満足
3. 「ゆきがなゆっきー」と「ユッキー」が二人いた。」
4. 「一度もさみしいと思わなかった。全部が楽しかった!」
5. 「絶対!来年もまた行きたい!」

班活動を通して、色々な方々と接する事ができて、本人の自信に繋がったと思います。生涯に希望を持って成長できる事が何よりです。家族で能登や金沢に行ってみたくなりました。
- 受け入れて下さってありがとうございました

沢山の野菜とお米を頂戴、とて有難かったです。

絵柄がらり
→ ステキでした
ゆりかえりノートの存在が何処かのお土産で宝物になりました。一言一言、リーダーさんが前向きにコメントも記入してくれて、優りが添ってくださりありがとうございました。

保護者の感想

スタッフの皆様には、大変お世話になりました。
つかれた顔もよく、とても楽しかったようで、たくさんお話を
きかせてくれました。スタッフの皆様、新しくできたお友達との
別れが、とても楽しかったようです。

私は仕事が好き、常に元々いるため、おは元気が大分です。
夏の休日が8月13日だったのもあり、ふんわりお祝いできま
した。こどもをとても楽しみにしていました。が、その時の思い出が
毎日が楽しかったようです。たくさん笑ったしおもしろい
不安はこどももありましたが、帰ってきたあいの笑顔を見て
とても安心しました。やはりはまるのを1倍楽しかった、怖がり、
常に、おは元気が大分です。このお話を
して、自分から行きたいと言いたし、
また一段と成長したと思います。

本当にありがとうございました。

母子共に感謝しております。

今回初めて参加させていただき、
夏休み前よりとてもとても楽しみに
しておりました。

FBにて送られてくる写真、多くの
スタッフの皆様、このふくしまっ
子チャレンジスクールには本当に
沢山の方々がかかわり、準備した
ことが改めて感じる事ができ、と
ても感動してしまいました。

食事にもこだわり、エコー検査ま
でしていただき、たくさんの人達
にふれあい、一回りも二回りも精
神的に成長したように思います。
帰宅して、あれも楽しかったこれ
も楽しかったとたくさん話してくれ
ました。

たくさんの愛情あふれるお気遣い
ありがとうございました。

本当に楽しかったので、早くも来年も
行く気満々の発言をしていました。

一緒に行きたみんなやスタッフの方とも
とても仲良くなったと言っていました。

帰って来次の日から、すぐにテニスの試合が
あったのですが、おまじに「コギリて」切った傷を
みんなに見せました。(笑)

リーダーにも、た「ミカ」も大車に「また」足につけてます!

スタッフのみなさん7日間本当に大変だ。たと思ひます。
それなのに、野菜に「おみやげ」まで頂いて、何か「何まで」
ありがとう「さ」言いました。書ききれない程感謝しています。

震災から3年半たとうとしています。

それなのに、忘れなくて、福島的事を覚えてくれてる
のが、すごくうれしいです。

本当に「ありがとう」言いました。

交流会の日は部活の試合とか「おはげ」は
参加したいと思ひます!!!

美翔にも参加したいが聞いたら「行きます!!!」って
言いました。お

帰りのバス
から降りてくる息子の顔はと
てもイキイキして、何も話さなく
ても分かるほどでした。
石川県の様子はFBでチェックしていま
したが、子ども達がのびのびしてて充実
した日を過ごしていることがとても伝わ
てきました。
震災から3年、ただなんとなく過ごしてい
ましたがもっと早く知っていたら...と
ちよつと残念でした。
今思うと原発問題で思うように外で遊べ
なかった日を今回のようなサマース
クールに参加していたら、息子はもっ
と早くいろんな経験をしていたの
かな...と。

子ども達の感想

- ・金沢東山散策の時間が短い。
- ・おにごこ楽しかった。
- ・せんべい来年もきてほしい。
- ・カヌーやりたかった。
- ・リーダーからのプレゼントはとてもうれしかった。(ミサンガ・色紙のメッセージ)
- ・期間をもっと長くしてほしい。
- ・来年も絶対参加する!
- ・おこづかいを値上げしてほしい。→ 金額は十分です(笑)
- ・あ、という間だった。
- ・イケメン体操・アイドル体操がおもしろかった。(笑)
- ・バーベキューでかぼちゃをもっと増やしてほしい(おいしかった)

最初はちょっと不安でしたが
能登に着いて食事の時、
ぼくのそばにいた友だちに
声をかけてすぐに友だちになりました。
その後、友だちがいっぱいできて
安心しました。
大学生も一緒に遊んでくれたので、
とても楽しかったです。
また来年も、参加したいです。



たのしかったからまたいきたい
ゆっきーありがとう

スタッフのみんなにやってくれて、
ちゅー感謝してます!!

7日間、本当に楽しかったです!! 小学校最後の夏休みに
いい体験ができました。今年より去年よりたくさん友達ができまし、
しゃべることができたので「成長」を自分でも実感できました(笑)

海水浴に水着、ぼうし、東茶屋街さんさく、コンサートが私にとって
とくに印象的でした! 東茶屋街は、いわさ市にはない 古郡の
ふんぎを味わえ、買い物もでき... 東茶屋街に住みたくなっ
てしまいました(笑)

悔..は..もありません! あの7日間が春の夢のように
すきでした... また来年も絶対来た..ぞ!!



スタッフの感想

【福島大学3年 鈴木隆之】

8/9～8/15まで今年で3回目の活動をむかえる『ふくしまっ子チャレンジサマースクール 2014in 石川』初めて参加させていただきました。偶然ネットで見つけたのがキッカケだったが、今回参加して良かったと心から思えるものでした! 6泊7日という期間も今までのボランティアの中でも最長だったし、ほとんどの方が当日初めてお会いするので、ちょっと不安もありましたが、スタッフ方の福島の子どもたちを楽しませよう!という熱い想いがとても感じられ、その想いを形にしようと全力で取り組んでいることにとっても感動しました。

その共通の想いが素晴らしい活動に繋がっているんだなと思いました。そしてなんといっても、アットホームな雰囲気! そんな場に7日間、想いや時間を共有できたことにとっても感謝しています (***)

熱い想いの活動に参加できている子どもたちもとても幸せだと思います \ (^o^)/

ふくしまっ子チャレンジサマースクールはとても内容が幅広いのも魅力の1つ!

海水浴から英語教室からコンサートからキャンプファイヤー! ぎゅっと詰まった7日間で、夏を満喫できました。そのなかには普段なかなか経験できないこともたくさんあり、子どもたちの好奇心や笑顔であふれていました! 今回のキャンプでは『次』がとても感じられました。なかなか今までのキャンプで『次』を意識することはなかったけど、この活動はこれからもずっと繋がっていくし、続けていくべきだなと思いました。最終日子どもたちやスタッフのみなさんと別れるのはすごく寂しかったけど、なぜか『これで終わりじゃない』『また会える』って自然に思えて笑顔でいられました!(ホントはお別れとか涙流しちゃう系男子なんだけどね ... 笑)

それぞれがこの7日間で感じたもの、学んだものを、自分のなかに『のこってるもの』をこれからも日常で生かしていきたいなと思いました! そしてまた1年後みんなが集まったら幸せです。

みなさんの熱い想いに負けないように自分もこれからはがんばろう! と思える7日間でした。

最後硬くなったけどつまりは スゲーー楽しい7日間でした! (^o^)/

ありがとうございました!

【福島大学3年 野間口拓実】

今回初めてふくしまっ子キャンプに参加させていただきました。こんなに長く子ども達と同じ時間を過ごすことはなかなかないため、貴重な時間を過ごすことができました。

参加して、一番驚かされたことは石川にとどまらず、広島や他の県からも多くのスタッフとして関わっているという事でした。今回のふくしまっ子のような福島県以外の方々为主体となって活動しているものがあるという事を知り、驚いたと同時にとてもありがたいことだなと感じました。

私の出身は茨城県で福島出身ではありません。しかし、福島に暮らし3年目、いろいろな想いもあります。福島の現状について大学で学んだり、農家の方と関わって風評被害について考えたり、海外の学生や大人たちに福島の現状を伝え交流したり、福島に関する様々な事を学びました。また、避難地域から移住した子ども達と交流する活動にも携わりました。そんな中で大事だと感じることは、その活動自体はもちろんその背景や現状を知る事に重点をおくことも必要なことだということです。ふくしまっ子のみなさんにも少しでもそういった事情を知ってもらえたら、子ども達そして福島県全体にとってもプラスになると思います。

今回とにかくすべてが新鮮で反省点も多く見つかりました。これらの経験を今後に関し、ぜひ次回のふくしまっ子にも参加したいと思っています。短い期間でしたが、みなさんありがとうございました。

【金沢大学4年 森井しづか】

ふくしまっ子で「ありがとう」の気持ちを大切にすると、伝えると気持ちがいい事を学び、感謝の気持ちに敏感でありたいし、ちゃんと伝えるようにしたいです。色々な地方に住んでいる幅広い世代の人でつくられたキャンプは大人も刺激を受けるし子ども達もたくさんの出会いに恵まれ、子どもの楽しみと安心と健康をたくさんの方々が考えているのはとても素敵でした。

今、この場所においてここにいる方々と出会えた事は幸せだなーと感じています。

人とのつながりをもっと大切にしたいと思いました。

【金沢大学 4年 深代 真一】

福島県の子どもたちを対象にした保養キャンプに参加させていただきました。

子どもたちに対して、スタッフそれぞれが強い思いをもって、本気になって7日間過ごしていました。あれほどまでに熱い気持ちをもった人間が、あんなにもたくさんいたんだと驚きでした。

そして、このキャンプは一年に一度。たった一度の人生の中で、二度とは戻らない7日間だからこそ、一つ一つの出会いを大切に、一瞬たりとも無駄にしないようにしたいと思いました。おそらくその気持ちが共通しているからこそ、素晴らしい時間になったんでしょう。

最近の出会いを振り返ると、共通して「誰かのために本気になってる大人」でした。人生の巡り合わせでそうになっているんでしょう。人は会うべき人に、会うべきタイミングで会えると思うので、今は何か意味のある期間で、その意味は自然と見えてくるはず。そして、どんな意味を持っていようと、それが素敵な意味であることは間違いありません。ここへきて、やっと自分の人生を動かせるための気持ちが整ったように思います。まだまだ周りから見た自分の立ち位置と、自分の感じる立ち位置の差に苦しんでいます。それは今後埋めていき、自分の感覚で動いていきます。そして、動いて得たものを周りに還元していくことも大切です。いつかこのふくしまっ子に恩返しが出来ればと思っています。多くの人に、このキャンプの存在を知ってもらえたら嬉しいです。

【金沢工業大学 4年 加藤 有理沙】

6泊7日ありがとうございました。キャンプ当日だけでなく準備段階から、熱い思いを持った方がたくさん集まっていて、熱い人の周りには熱い人が集まってくるんだと思いました。人とのつながりは大切なあと改めて学びました。いろんな人のつながりがなければ、今回のメンバーでキャンプをすることはできなかったと思います。

【社会人 山本 大輝】

若い学生の中に交じて班について一緒に行動させてもらい、毎日充実楽しい時間を過ごさせていただけたいことを感謝しています。一方で体力がなかなか追いつかない面もあり、生活面の指導等で行き届かないところもあった事を反省しています。

子ども達は、大変素直で子どもらしい子ども達ばかりで聞き分けのある子、年下の子の面倒を見てくれる子も多く、そうした素敵な子ども達と1週間を過ごせた事は大きな喜びでした。キャンプを支える大人たちの良い関係や雰囲気子ども達の間関係にも良い影響を与えていたのだと思います。キャンプの運営については、サワさんが繰り返しおっしゃられていた通り、人に恵まれていることも事実で同時にまだ3年目の活動とは思えないほど組織の形もしっかりしていると思いました。特に学生スタッフの最前線での動き、大人スタッフの連携は目を見張るものがあると思いました。音楽、レクリエーション、カメラ、食事等、各自の持つ力がそれぞれに存分に発揮されており、全体として非常に充実したプログラムの数々になっていたように思います。

それらの中で今後に向けて感じた事を申せば、夜のミーティングの長さ(コアスタッフ等である程度話を事前に詰めておく等)、自戒を含めてですが生活指導の行き届かせ方(靴の整理、お風呂のマナーや片づけ、部屋の荷物整理等)、安全管理や体調管理について等は、より良い姿を目指してゆけるように思いました。

また今後も事業に関わらせていただけるなら、出来る限り準備や計画段階からお力添えさせていただければと思います。今回は本当にありがとうございました。

【社会人 森 和浩】

今年も皆様の熱意と努力でふくしまっ子キャンプが開催されること、とても素敵な時間をつくっていただいた事に感謝しています。それぞれの「当たり前」があり、相手の気持ちを考えつつ自分を表現する事の大切さを学びました。子ども達、スタッフのいい表情や心からの笑顔が素敵で、人と人とのつながりで楽しさや喜びを感じられることは幸せなことだと思いました。様々な年齢、出身、職業の人たちが揃っていて、子ども達やスタッフの関わりで自分の枠が広がり、このキャンプに参加した方々の心に何かいい変化が生まれる(を生むための)『種まき』ができる場所だと感じています。僕にとってこのキャンプは自然体で笑顔でいることができる場所なので今後とも関わらせていただきたいと思います。今年も素晴らしい時間をありがとうございます。

参加者アンケート結果

参加26家族中、24家族さまより回答をいただきました。

①この事業を知った媒体は何でしたか？

友人知人の紹介	9
去年参加したから	8
ネット（子ども福島のHP）	3
チラシ	2
その他（こども劇場）	2

②参加の理由は何ですか？ 複数回答可

夏の思い出作り	20
自然に親しませたい	15
放射能からの退避	12
行事に魅力を感じたから	9
友達を作るため	8
去年楽しかったから	5
石川県に行ってみたい	3

③来年開催された場合、参加したいですか？

ぜひ参加したい	19
できれば参加したい	5
参加したくない	0

④プログラム全般についてどうでしたか？

とても良かった	19
良かった	5
普通だった	0
悪かった	0

⑤どの行事が良かったですか？ 複数回答可

中でも一番良かった行事に◎を付けてください。
（○は1点、◎は3点で集計）

海水浴	39
キャンプファイヤー	30
コンサート	19
水鉄砲づくり	16
金沢ひがし茶屋街散策	12
バーベキュー	11
塩づくり	11
動物園散策	9
氷の彫刻	9
英会話教室	8
海洋ふれあいセンター	8
いろいろシャボン玉	6

⑥食事はどうでしたか？

とてもおいしかった	8
おいしかった	14
普通だった	1
おいしくなかった	1

⑦リーダーの指導は良かったでしょうか？

とても良かった	20
良かった	4
普通だった	0
悪かった	0

アンケート結果の考察

①この事業を知った媒体はなんでしたか？

今回は友人知人からの紹介が最も多くありました。昨年、参加したこどもの保護者さんからの紹介での参加が5名、poco 連人さんからの紹介が5名、白河市での保養相談会(6/15)からの参加が2名、いわき市の高梨さん所属のNPO 法人みんぷくさんからの紹介が5名ありました。やはり口コミが有効であること、知っている方や信頼できる団体からの紹介が安心して参加できることにつながることがわかりました。

②参加の理由は何ですか？

夏の思い出作りが20ポイントで一番多い理由にあげられていました。福島では野外での活動が以前ほど制限されなくなったとはいえ、放射能の影響を心配されている保護者さんが半数以上おられることが、「自然に親しませたい」「放射能からの退避」に○をされた数から推測できます。

③④についていずれも8割の方が「来年もぜひ参加したい」「とても良いプログラムだった」と答えてくださいました。

⑤行事についてはやはり人気ナンバーワンは海水浴でした。以下キャンプファイヤー、コンサート、水鉄砲づくり、金沢ひがし茶屋街散策と続きます。やりたかった行事はカヌー体験がダントツでした。

⑥食事については「とてもおいしかった」「おいしかった」が9割を超えての回答でした。ただ、保護者さんからは肉類が少なかったとの子供たちの要望が数名寄せられていました。

⑦リーダーの指導については「とても良かった」が8割以上。「良かった」の2割を入れると十分なケアを学生リーダーがしてくれたことが分かります。保護者さんのコメントにも学生リーダーに対する賛辞のことが多く見られました。

以上アンケート結果は概ね高評価をいただいたようですが、それに甘んずることなくより良いチャレンジサマースクールのあり方を求めて改善・改良して来年を迎えたいと存じます。アンケートにご協力ありがとうございました。



スタッフおよび協力者

(敬称略)

社会人スタッフ 14名

岩井繁樹、クノキ家（ジョン、メグ、シーファス）、澤本悟博、下村英司、瀬戸政浩、浜 敬一
伊勢朋之、伊藤はる子、徳井聡司、森 和浩、小辻真帆、猪狩英明、高梨幸司、山本大輝、真家大樹
NPO法人 poco 連人：櫻井保夫、新田洋子、蛭田晃司



参加保護者 2名

橋本啓輔、鈴木真由美

学生スタッフ 18名

田村朋久、クノキ家（ジョセフ、サイモン、ビンセント、ジョイ）、清水十輝、伊藤 司、原田遼介
深代真一、嶋脇勝利、鈴木隆之、野間口拓実、金子秀千佳、加藤有理沙、戸田怜里、森井しづか
西口昌那、細川詩萌里

お手伝いいただいた方々 20名

- ◎看護師：佃 恵美子、田村幸子
- ◎救急指導員：吉本 哲
- ◎イベント協力：木谷あけみ、村上博司、小津良子
- NPO 法人いしかわ自然体験支援隊：森江 章、中村貞子、岸 武夫
- ◎エコー検査 吉田小児科クリニック：吉田 均 院長、井家祥子

炊事でお手伝いいただいた方々 22名

中村ちか、道花敬子、道花真衣、石黒由加里、石黒茉莉子、梅沢 清、八田育子、中川久美子
瀬戸カオル、横越和子、猪飼紀子、新田由佳、村上麻代、西口知子、瀧田たかよ、檜垣牧子
範子クノキ、ファーラクノキ、喜多礼子、高森玲子、村井陽子、澤本多日子

その他募集活動その他にご協力いただいた方々

北國新聞社、広告工房アピール

協賛金・食材現物提供ご協力者

(敬称略)

企業・団体様

- ◎西日本旅客鉄道労働組合 西日本JRバス地方本部 金沢分会有志一同
- ◎西日本JRバス地方本部 執行委員長 西原一英 ◎原発の危険から子どもを守る 北陸医師の会
- ◎自然育児の会そらまめくらぶ ◎瀬戸機工サービス ◎株ネットアプリ 西田 誠
- ◎株マツバラ 松原大輔 ◎寿し寅 ◎株やね屋 ◎安地建築 ◎株長覚硝子建材店
- ◎先出谷板金工業(株) ◎NPO法人こらぼる 浜 敬一 ◎楽農心友会 ◎株尽 ◎かべ屋
- ◎SAWA会 ◎株ピーアイコーポレーション 永藁祐一 ◎株ヤマモト工務店 ◎アズマ建築
- ◎株作造 ◎作造会 ◎株北陸ホームサービスステーション ◎水島郵便局一同
- ◎山屋 棚田恵子 ◎エコファーム 奥野 ◎村田屋旅館 ◎月天心
- ◎株金沢オーガニッククラブ ◎株澤本商事

個人様

- ◎川上万里子 ◎一丸清美 ◎桑村佐和子 ◎舟本久恵 ◎遠藤洋子 ◎瀬戸政浩
- ◎下村英司 ◎五十嵐朱美 ◎猪飼純市 ◎宮下雅子 ◎北野ゆみ子 ◎西野和也
- ◎奥村久美子 ◎奥村弘一 ◎中野正規 ◎山崎千亜紀 ◎西尾修一 ◎金田まり江
- ◎中田他慶子 ◎高柳栄利子 ◎三宮敦代 ◎島野健太郎 ◎関 敦子 ◎奈良 勇
- ◎猪狩英明 ◎高森玲子 ◎村井陽子 ◎吉谷道江 ◎齋藤正二 ◎津田省吾
- ◎岩井繁樹 ◎高田 萌 ◎澤本三十四 ◎澤本悟博

食材提供・現物ご寄付様

- ◎エコファーム奥野 ◎株金沢オーガニッククラブ ◎あさひ屋ベーカリー ◎パン屋たね
- ◎トモファームあゆみ野菜 ◎ベーカリーホームSMILE ◎赤井由美子 ◎室井幹子
- ◎山崎千亜紀 ◎坂本龍亮 ◎志水 隆 ◎志水ひろみ ◎橋本啓輔 ◎橋本久美子
- ◎北陸製菓(株) ◎三箇吉来 やまきち商店 ◎森芳美 ◎菱沼曙美 ◎工藤愛子
- ◎小花康幸 (RICEHAIRDESIGN) ◎自家焙煎東出珈琲店 ◎奥村久美子
- ◎奥村久子 ◎川本七穂子 ◎櫻井優美江 ◎武野達雄 ◎らくや 川口和彰 川口美紀
- ◎カフェどんぐりの木 工藤彩子 ◎アラガキ不動産 ◎広瀬敦士 広瀬朝子
- ◎高木花商店 ◎月天心 橋本和也 橋本早苗 ◎あうん堂 本多博行 本多恵子
- ◎自家焙煎珈琲屋チャペック ◎今井美智 ◎食事・喫茶ニワトコ 中西有希子
- ◎小松靖典

こころ暖まるご寄付、ご協力ほんとうにありがとうございました。

福島の小中生 自然満喫

野々市、金沢の有志が招待



キャンプファイアでダンスを楽しむ参加者
＝金沢市キゴ山ふれあいの里研修館

野々市、金沢市の市民有志は9日から6日間、東日本大震災や福島第一原発事故で被災した福島県の小中学生30人を石川に招き、能登や金沢の海、山で自然体験会を開いた。活動最終日の14日は金沢市キゴ山ふれあいの里研修館でキャンプファイアを行い、歌やダンスを繰り広げ絆を深めた。

開催期間中に石川県の地元新聞社北國新聞に掲載された記事です。

3年目となる今年は、児童生徒とともに能登町の海水浴、キゴ山ふれあいの里研修館での水鉄砲作りに取り組んだ。初回から連続参加した郡山サベリオ学園中1年の橋本逸樹君(12)は「海で泳ぐことができ、とても楽しかった」と声を弾ませた。

(第3種郵便物認可)

福島の子どもたちも笑おう

主婦 中川久美子 74 金沢市



本欄の「原発の後始末 子孫に残すな」(六日付)を読んで、全く同感だ。東京電力福島第一原発事故から三年四月余、いまだに事故原因が究明されず、東電、政府の責任もあいまいなままだ。
「原発はトイレなきマンション」といわれる。先日、「ふくしまっ子チャレンジサマースクール2014 in 石川」の一環として、金沢市の香林坊で被災地支援の街頭募金に立った。この

事業に携わって三年目、街頭募金に立って「まだまだ金沢にも関心を持ってくれる人がいるんだと感じた。今年プログラムの内容も決定した。参加人数も大幅に増やし、能登と金沢で福島の子どもたちと大いに楽しめ、心から笑い合いたい」と今から胸を躍らせている。
放射線物質の影響を一番受けやすい子どもたちには「何の罪」もない。子どもたちを悲しませないためにも、私たちの責任において「子どもや孫たちに重荷を残さないよう」、これからも被災地にしっかり目を向けていきたいと思っている。

キッチンスタッフの一員、中川久美子さんの新聞投稿記事です。6月29日(日)に金沢市の香林坊で行なわれた街頭募金の感想などが述べられています。H26.7.15 北陸中日新聞掲載

中川さんはこれまで7回も新聞の読者欄に投稿され100%の掲載率を誇っています。9月20日(土)に行なわれた反省会&打ち上げ会の様子を紹介していただきました。H26.9.30 北國新聞掲載

ふくしまっ子と笑顔の1週間

中川久美子 74歳 (金沢市)

「ふくしまっ子チャレンジスクール2014 in 石川」の打ち上げが過日実施されました。30人以上が参加。福島からご夫婦も参加

福島原発事故の忘却が強まる中、最近では放射能に対する関心が薄い人、そうでない人の温度差があり、安易に放射能の話もできないなど、福島のご夫婦の話を聞き、身につまされる思い

され、感想などそれぞれの熱い思いに花が咲き、楽しい打ち上げとなりました。リーダーの皆さんからは、アットホームな雰囲気の中で、7日間子どもたちと共に笑い、同じ時間を共有できたことの幸せ。何よりも人生にとって貴重な経験ができたことなど、しみじみと語ってくれました。福島原発事故の忘却が強まる中、最近では放射能に対する関心が薄い人、そうでない人の温度差があり、安易に放射能の話もできないなど、福島のご夫婦の話を聞き、身につまされる思い

編 集 後 記

今年 30 名の参加者の中、27 名からのアンケートの回答をいただきました。

子ども達・保護者の皆様から来年もぜひ参加したい!というたくさんのメッセージに胸があつくなりました。

去年は 16 名だった参加者が今年は 30 名に増え、それに伴うスタッフ数の増加があり、不安や戸惑いがありました。でも、元気いっぱい個性豊かな子ども達をそれぞれの立場で真剣に支え、関わるスタッフの皆様との素敵なハーモニーがチャレンジスクール開催中にたくさん生まれ、その不安や戸惑いはチャレンジスクールが終わるころにはきれいに消えていきました。

そんな日々の表情を少しでも感じていただき、長いようで短かった夏のひとときをご家族、お友達、関わった方々が共に語り合える報告書となっていれば幸いです。

色々な協力の形を持ち寄って「何かできないか?」と集まったたくさんの学生・大人・キッチンスタッフ、笑顔いっぱい参加した子ども達、そして保護者の皆様とのつながりを大切にしながら、小さくても継続していく事で少しずつ広がり、深まる輪・環・和になっていきますように。

『他のリーダーやスタッフ達となかなか口にできない福島の事をシェアしたい』今年、福島から全日程参加してくれた大学生リーダーのそんな呟きが耳に残っています。原発事故は電気を使っているすべての方々の問題だからこそ、福島から 500 キロ離れた石川でも決して他人事ではありません。忘れない事・学ぶ事・発信する事でより身近な問題として考えていきたいと思えます。

たくさんのご支援・ご協力、本当にありがとうございました。

また来年もお会いできることを楽しみにしています。

ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会 事務局 澤本 多日子

※保護者・こども達の感想については、ご本人の了解をいただいて原文そのままを載せさせていただきました。



この事業は平成26年度ふくしまキッズ夢サポート事業の
補助金助成にて実施されました。

2014

特定非営利活動法人 poco連人
ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会